

税を考える週間「記念講演会」

『世界に挑戦する大田区の技術』

講師：下町ボブスレーネットワークプロジェクト
ゼネラルマネージャー 細貝 淳一氏

11月2日(木)に大田区民プラザにて、税を考える週間「記念講演会」を開催致しました。

今年下町ボブスレーネットワークプロジェクトより、ゼネラルマネージャーの細貝淳一氏を講師にお招きし、講演会&トークショーを行いました。

下町ボブスレープロジェクトは、2018年の平昌冬季オリンピック出場をかけて挑戦を繰り返す大田区期待の星として注目されており、大変旬な話題ということもあり総勢106名と多くの方にご参加頂くことができました。

冒頭、金山会長、上竹署長よりご挨拶をいただき、講演に入りました。

講演では、細貝氏の生い立ちや経営者としての考え、そこから何故下町ボブスレーのプロジェクトに着手したのかなどをお話して頂きました。



細貝 淳一氏

細貝氏は10代の頃から、高学歴の同世代に負けない気持ち、背中を見せてくれた経営者の先輩たちへの憧れ、力を貸してくれ多くの学びを与えてくれた近隣工場の方々への感謝の気持ちなど、様々な思いの中で独立する決意を固めました。

ただし、独立して経営者になることはもちろん、経営者になった後も多くの困難が待ち受けておりました。しかし、困難が多ければ多いほど、それをクリアすればするほど、同じ数だけの気づきがあり、それが今の細貝氏の力になっているように感じました。

細貝氏がテーマにしていることは「いかに社員が自ら育ちたいと思える会社を作れるか」ということであり、実践していることは、必ず Face to Face で出社した社員に挨拶をするということです。例えば土砂降りの日、自宅を出る社員の心遣いや顔を思い浮かべた時に社長としてどう行動するのか、そういう社長の社員への思いやりこそがモチベーションになり、強い会社を育てる人財になるのだということに気づいた時、自然と行うようになった行動だということでした。



講演はいよいよ下町ボブスレーの話へと移ります。今、大田区の町工場の前には、少子高齢化、生産性の向上、海外の低コスト生産など、多くの苦難が立ちまわっているとのことですが、これを皆で協力して打ち勝って行こうというのがプロジェクトを立ち上げた思いでした。

大田区には羽田空港があり、海外への輸出も容易にできます。そこで、国内だけでなく海外からの注文が受けられる流れや仕組みを作ることもプロジェクト開発秘話の一つにありましたが、その仕組みを作るためのブランド確立の柱としてボブスレーに参戦したとのことでした。

ボブスレーは、国内では大手が参入しておらず、海外ではフェラーリやBMWなど高度な技術力を持った会社が製作しております。その面々とオリンピックという世界の大舞台で戦い、勝利した際には、機体を作った製作メンバーの会社は世界に技術力をPRできます。ボブスレーを作った会社として名前が世界に売れば、世界からの注文が来る。それを羽田空港を保有するという地の利を生かして出荷すれば納期もかからない、ということから一つの大田区ブランドを確立できるのではないかとこの思いが込められておりました。

第2部のトークショーでは、当会役員の上島副会長、

醍醐組織委員長、黒坂青年部会長にご登壇頂き、それぞれボブスレーのどの部分に関わっているか、その中でどの困難や逆に得たものは何かをお話頂きました。

特に印象に残ったことは、製作会社の皆様は全て無償で協力しておりますが、それに見合ったメリットも得られているというお話です。それは社員の方がボブスレーに携わることに喜びを感じ、誇りを持って製作する姿が見られたり、毎年開いているバザーの集客が上がるきっかけになったり、普段は入れないような他者の工場を見学することで自社の技術力の向上につながったりしているということでした。

下町ボブスレーはジャマイカチームの機体として、この後アメリカ、ヨーロッパで予選を行い、早ければ12月24日に出るランキングで20位以内に入ればオリンピックに出場ができるかどうか分かって来るということなので、本口押聴させて頂いたお話を思い出しながら応援したいと感じました。

最後に、羽田副会長から謝辞を述べられ、記念講演会&トークショーは終了しました。

研修委員 ソニックス(株) 金山 春樹

